



文武両道、集中力培う

「負けず嫌い」勉強でも

サッカーのワールドカップの日本代表に初選出された塩貝健人(21)は、進学校から慶応大に入り、在学中にプロの舞台に立った経歴を持つ。自他共に認める「負けず嫌い」はサッカーだけでなく勉強でも発揮され、文武両道によって培った集中力で日本代表への階段を一気に駆け上がってきた。

通ったのは、難関大への進学者を多数輩出する国学院久我山高(東京)。ラグビー部や野球部が全国大会に出場するなどスポーツも盛んだ。入学した2020年は新型コロナウイルス禍のまただ中。3年間担任を務めた尾崎先生によると、初めて対面で会えたのは6月で、第一印象は「エネルギーのある子だな」。

Jリーグ横浜FCのユースチームに上げられず、同校サッカー部の門をたたいた塩貝。面談では「ぼくはまだ下手くそだけど、周囲を見返したい。人ができないことをやりたい。」と話していたという。将来については、兄が進んだ慶応大に入り弁護士になると語っていた。

尾崎先生は野球部監督。サッカー部と同じグラウンドを使っており、他の部員たちよりも早く来て黙々とシュート練習に励む姿をよく覚えている。修学旅行中にも筋トレを欠かさず、3年時にエースとしてサッカー部を引っ張り、全国大会に出場。プロのスカウトからも注目されるようになった。

「負けず嫌いでストイック」(尾崎先生)な性格で、勉強にも打ち込んだ。隙間時間があると「ぐっと集中し、その度合いがすごかった。」という。コツコツと積み重ね、3年間時の評価平均は5段階評価で4.9にまで上がった。尾崎先生は、「類いまれな能力を持っていたというよりも、できない自分と向き合い、できることを増やしていった印象が強い」と目を細め、「この先も、塩貝にしかできない道を切り開いてほしい。」と語る。

今日から、2学期が始まります。夏休みの間、大きな事故や災害に遭うことなく始業式を迎えられたことを、皆さんとともに喜びたいと思います。

今回は、塩貝健人選手を紹介します。塩貝選手のような日本代表に選出される人でも、はじめはうまくいかなかった経験をしています。それでも、目標をきかへ、努力を続けて自分の道を切り開いています。あなたは、どのようにして自分の道を切り開きますか？そして、その実現のために何を努力し、何に挑戦しますか？ゆっくり、じっくり考えて、勉強や学校生活に取り組んでいきましょう。

さて、2学期は、さまざまな行事があります。1年生は五色台集団宿泊学習、2年生は職場体験学習、そして、全校で取り組む、合唱コンクール。その一つ一つが、意義のある行事です。ただし、意義あるものにするのは、皆さん自身です。計画をしっかり立て、目標に向かって自分に厳しく、粘り強く学習や運動に励んでいくことを期待しています。また、そのために大切なことは、強くたくましい心と身体を持ち続けることです。まだまだ暑い日が続きますが、仲間とともに、がんばりましょう。

< 保護者の皆様へ >

長かった夏休みも終わり、今日から2学期が始まります。2学期には大きな行事が控えていますし、3年生は進路について具体的に考える時期になります。学校からお願いすること多いと思いますが、よろしくお願いいたします。逆に、ご家庭からご相談ごとなどがありましたら、いつでも学校へご連絡ください。

また、1学期末の学校評価には、多くの方がご意見や生徒への励ましメッセージをお寄せくださり、ありがとうございました。今後、学校通信の紙面にて、ご報告させていただきます。それに先立って、次の点をお知らせします。

○ 9月末をめぐり、体操服登校を認めます。体操服で校内生活を過ごすことも可とします。ただし部活のTシャツなどは登下校・部活中のみ可です。また、着替えが必要だと思う場合は、制服や替えの体操服をご準備ください。なお、合唱コンクールや式典などは、制服着用とします。具体的には、その都度お知らせします。